

事業所における自己評価

公表：令和6年3月25日

事業所名： 千葉市療育センター
福祉型児童発達支援センターやまびこルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		お子さんに合わせて、視覚的な手がかりを提示したり、不要なものを撤去したりしている。	本の貸し出しスペースを大幅に整理し、利用者が使いやすい状況にした。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		遊具等の整理整頓をして、環境整備に努めている。	
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		指定管理の定期モニタリングにて業務改善を図っている。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者による外部評価は行っていない。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			職員による内部研修だけでなく、積極的に外部研修への参加した。他児発、小学校難聴学級、病院の見学を実施し、情報交換を行った。
適切 な 支 援 の 提 供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		年2回保護者ニーズを確認し、モニタリングを実施したうえで、計画書を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		聴力、言語検査を実施し、課題の分析を行っている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		聴覚障害の障害特性を考慮し、集団・個別と指導形態を工夫をしている。また、「聴覚活用」「言語・コミュニケーション」「活動」「社会性」と具体的な支援内容を設定し、支援に努めている。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	○		基本的には個別指導の内容を中心に、個別支援計画を作成しているが、他児との関わりに課題のあるお子さんは集団の目標も入れて作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		支援開始前の打ち合わせを実施し、出欠席の確認や職員の動き、役割の確認を行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援終了後に、子どもの様子を中心に職員全員で情報共有をし、記録を作成している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援内容を個々の指導記録に記載し、検証・改善につなげている。	映像による振り返りやOJTも実施している
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		日程を調整し、施設長、個別支援担当者に参加するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		必要に応じて実施している。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○		併行通園をしている保育園の看護師と連携を取っている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	○		保護者より、主治医や協力医療機関等の連絡先を聞いている。必要があれば文書での情報提供を依頼している。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		幼稚園・保育園訪問や電話連携を実施し、難聴児の間こえ方や補聴器の管理など知識や方法の情報発信を行い、相互理解を深めている。また、適宜、参観を受け入れ、支援内容の理解を深めてもらっている。	連携の幅を広げるため、幼稚園・保育園等の訪問を多職種で実施していきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		訪問および、文書や電話で、聴力や言語発達状況、また支援内容の情報を共有し、移行支援の充実を図っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機 関や保 護者との 連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		千葉県早期支援聴覚担当者連絡会、うさぎねっとなどを通じ、県内の聴覚障害教育機関等と連携をしている。また、利用児が並行通園している児童発達支援センター、児童発達支援事業所との連携も行っている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		施設としては実施していないが、保育園等と並行通園して、障害のない子どもと接している児は多い。	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎回の指導ごとに実施している。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○		日々の療育の中で、難聴の特性理解等の助言・支援を実施している。また、保護者セミナーを実施し、保護者の難聴理解への支援を行っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約や更新時、運営方針説明で内容確認を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者のニーズと個々の課題・目標に沿って個別支援計画書を作成し、保護者に説明を行い、同意を得ている。	
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
保護者への 説明責任等	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者懇談会を年3回実施した。また、4・5歳児は、母子分離で、グループ活動を実施することで、保護者同士が情報共有できる時間を設けた。	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申し入れについては、随時職員間で協議し、適切に対応に努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月ごとに行事予定の入ったスケジュール表を送ると共に、活動概要に関するお便りを添付している。また、月初にやまびこだよりを送り、必要な情報を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		メール機能を取り入れ、日々の連絡やお知らせなどを周知しやすくしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	○		療育センター全体のマニュアルに準拠して行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		毎月1回、防災訓練を実施している。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○		てんかん発作等について、契約時に聴き取りを行い、毎年年度初めに確認をしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		食物アレルギーがある子どもについては、医師の指示書に基づく対応をしている。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		終礼時に、その日のヒヤリハットを報告し、記録している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		毎年、研修に参加し、全職員に伝達講習を実施している。また、定期的に施設内で研修を行っている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		身体拘束は行っていない。		

この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。